

前回のかばごん冬号で京都の護王神社について書きました。その後、久しぶりに訪ねてみたところ、たいへん大勢の参拝者がいらっしや、びっくりしました。しかし、昔のような風情はなく、期待していた水出しコーヒーはなくなっていました。

さて、今冬はとても雪が少なく、本格的な雪かきをすることなく終わりました。豪雪の翌年はこんなものなのかなと思ひ、過去の降雪量を調べてみましたが、一定の傾向はありませんでした。とにかく今年は異常なほど雪が少なかったようです。

春の訪れも早そうです。希望に胸をふくらませ、新しい生活に入っていく方々も多いと思ひます。私の好きな言葉に「これからが、これまでを決める」があります。未来をつくるのはまさに自分自身です。そして「今、ここ」、今、ここにある自分に感謝して、今この時この場所で全力を尽くすことです。必ず、道は開けて行きます。

### [最近目立つ病気]

1月中旬から約1か月間、インフルエンザA型が猛威を振りました。年末から流行がはじまったので、A型に2度かかった人もいらっしやいました。ここ数年、春先にB型インフルエンザの流行もみられたのですが、今のところB型の流行はみられていません。

RSウイルス感染症やヒトメタニューモウイルス感染症が乳幼児の間で続いています。この二つのウイルスは症状がとても似ており検査をしないと区別が付きません。当院では1回の鼻腔内分泌物の検査で両者の区別が可能な検査を必要な場合に行っています。

溶連菌感染症もみられています。アデノウイルス感染症も散発しています。伝染性紅斑は昨秋からの流行が続いています。ウィルス性胃腸炎は大流行ではありませんが、やはりこの寒い時期から春先にかけては流行しています。これは家族内感染が多いので、家族の一員に急な嘔吐や下痢がみられた時は注意が必要です。具体的には、排便後のトイレの清掃、吐物に対して使い捨て手袋等を使った注意深い処理等を行ってください。

2月下旬頃からは花粉症がみられています。今年はスギ花粉の飛散量が例年よりも多く、目のかゆみ、鼻汁・鼻閉等の症状が例年よりもひどい方が多いです。初めて発症した方もいらっしやいました。晴れた日の外出は極力避けること、マスクや花粉症対応眼鏡の着用、帰宅時に玄関で衣服や髪に付着した花粉を払い家の中に持ち込まないこと、うがい・手洗いの励行が大切です。

### [風疹対策]

厚生労働省は平成30年12月、風疹の新たな対策として、子どもの頃に予防接種の機会がなかったために特に感染リスクが高いとされる39歳～56歳の男性を対象に2019年から約3年間(平成2019年度～2022年度末までの約3年間)免疫の有無を調べる抗体検査とワクチン接種を原則無料にすると発表しました。

風疹の定期接種は現在、男女ともに幼児期に計2回実施されています。しかし以前は、女性だけをワクチン接種の対象としており、昭和37年4月2日～昭和54年4月1日に生まれた39歳～56歳の男性は定期接種の機会がありませんでした。この世代の抗体保有率は他の世代より低く、最近の風疹患者の中心になって

います。日本は近年の風疹の流行により、根絶宣言をしているアメリカなどの先進諸国から「風疹の輸出」と指摘されるという問題も出はじめています。

厚生労働省は今回、抗体保有率の低い年齢層への予防接種を公的な「定期接種」に位置づけ、まずは抗体検査を受けてもらい、免疫が十分でないと判明した人にワクチンを接種する方針です。費用はいずれも無料です。

今回の対策で、2020年の東京オリンピックまでに対象となる年齢男性の免疫保有率を85%以上に引き上げ、2021年度末には90%以上とすることを目指します。WHO(世界保健機関)では、風疹の流行を阻止することが可能な「集団免疫状態」となるには全体の85%に達することとされ、世代を問わず、この値をクリアする必要があります。

### [発達障害]

近年、発達障害という言葉聞く機会が増えてきました。発達障害とは何でしょうか？

発達障害者支援法(2005年4月1日施行)において、「発達障害」は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」(発達障害者支援法における定義第二条より)と定義されています。

障害の種類を明確に分けて診断することは大変難しいとされています。また、年齢や環境により目立つ症状がちがってくるので、診断された時期により、診断名が異なることもあります。大事なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人その人に合った支援があれば、だれもが自分らしく、生きていけるのです。なお、発達障害のある人へのアプローチは定型発達の人にも適用されると円滑な人間関係を築くことができると言われています。

自閉症は、次の3つの特徴をもつ障害で、3歳までには何らかの症状がみられます。(1)対人関係の障害(2)コミュニケーションの障害(3)限定した常同的な興味、行動および活動、最近では、症状が軽くても、自閉症スペクトラムと呼ばれることがあります。対人関係の障害があり、限定した常同的な興味、行動

および活動をするという特徴は、自閉症に共通した障害ですが、アスペルガー症候群は、明らかな認知の発達、言語発達の遅れを伴いません。学習障害は、全般的な知的発達に遅れはないのに、読む、書く、計算するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることに著しい困難がある状態をいいます。注意欠陥多動性障害(ADHD)は注意持続の欠如もしくは、その子どもの年齢や発達レベルに見合わない多動性や衝動性、あるいはその両方が特徴です。これらの症状は通常7歳以前にあらわれます。(1)多動性(おしゃべりが止まらなかったり、待つことが苦手でうろろろしてしまったりする)

(2)注意力散漫(うっかりして同じ間違いを繰り返してしまったりすることがある)(3)衝動性(約束や決まり事を守れないことや、せっかちでいららしてしまうことがよくある)一般的に多動や不注意といった様子が目立つのは学齢期ですが、思春期以降はこういった症状が目立たなくなることもあります。



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター(TEL:222-0099)では午後7時30分から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は4/21・6/20・7/18の予定です。なお、5月5日は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチン(ロタウイルス・おたふくかぜ・インフルエンザ・B型肝炎)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

